

第2回松江市街地内水対策検討会 議事概要

【日 時】 平成 20 年 11 月 18 日(火) 14:00 ~ 15:30

【場 所】 島根県民会館 303 会議室

【出席者】 アドバイザー 広島大学河原教授、京都大学川池准教授

国土交通省 出雲河川事務所

島根県土木部 河川課、斐伊川・神戸川対策課、松江県土整備事務所

松江市 大橋川治水事業推進課、農林課、土木課、下水道工務課

【内 容】

内水解析条件と手法について

- ・ 将来的には大橋川改修が完了して外水位が下がれば、内水氾濫の危険性は軽減されるものと考えられるが、河道改修完了までには時間がかかるため、効果的かつ経済的な公共投資を行うよう、暫定計画として将来計画規模以上とならない範囲で内水排除施設を検討する。(県)

暫定計画では大橋川の河道条件を斐伊川水系河川整備計画としているが、河川整備計画は来年夏以降に策定する予定である。それを待って内水解析を行うのか。(国交省)

大橋川河川整備計画が決定してから解析を行うことが最良ではあるが、大橋川改修と内水対策はセットであり、内水検討も進める必要がある。時間的に困難であれば、将来計画に手戻りが生じない範囲で解析を行う。データ提供等の協力をお願いしたい。(県)

- ・ 現在北田川水門を開けることが困難だと聞いている。水門操作により解析結果が変わるが、どのような条件設定をするのか。(アドバイザー)

これまで出水時には地元の了解を得て北田川水門を開けている。基本的に外水位が内水位を超過すれば水門を閉める。京橋川水門については来年度の出水期までに操作要領を作成する。(県)

朝酌川の合流点計画をこれから検討するが、水門操作が影響してくるため情報提供願いたい。(国交省)

- ・ 朝酌川合流点計画について、設計は国交省で行うが、その他地元調整など役割分担が未決定なものがあるので、早急に朝酌川合流点について関係機関で協議したい。(国交省)
- ・ 許容浸水位を T.P.+1.50 にするとのことだが、H18.7 豪雨を受けて実施した当面の対応策では H.P.+1.30 を目標に実施したはずである。地元に対して、それより安全度が低くなることを納得してもらえるのか？(松江市)

今回採用する S47 洪水と設定条件の違いもあるが、浸水する箇所は個別に対応するなど今後検討することとし、今回の検討は許容浸水位 T.P.+1.50 を基本としたい。(県)

- ・ 橋南地区で橋北地区と同様の解析手法をするには時間がかかり、とても今年度中に解析できない。橋南地区も今年度中に計画案を提示したいと考えており、解析手法の違いはあるが既往モデルである程度提示することは可能か？(県)

そこまで大きな差は出ないのではないかと思います。ただし、既往モデルの解析条件で権太夫川や下水道の取り扱いなど不明確な部分があるので、再度確認しておいてほしい。(アドバイザー)

総合的な治水対策について

- ・ 国交省の新規施策として、流域治水対策事業が来年度から始まる。排水機場等のハード整備をする場合は、自治体による土地利用規制、流出抑制対策等ソフト対策の実施が採択条件となる。(県)

今後の予定

- ・ 解析条件について行政間で調整し、次回検討会で複数案提示できるよう解析を進める。

次回検討会開催予定:1月